

1. 導入

Chomsky (2023)は、強い極小主義命題(The strong minimalist thesis)に基づいて転位現象を捉えるため、ボックス理論と呼ばれる新たな理論を提案した。この理論のもとでは、従来想定されてきたような連続循環移動は存在しない。したがって、Wh 移動を含む(1a)は、(1b)のような構造となる。

(1) a. Who do you think that John saw?

b. $[_{CP} \quad [do \text{ you } [_{v^*P} \quad think [_{CP} \quad that \text{ John } [_{v^*P} \text{ who saw who}]]]]]$

Wh 句 who は、埋め込み節の動詞 saw の目的語として基底生成され、saw から θ 役割を付与される。その後、who はフェイズ先端である v^*P 指定部への内的併合を受ける。一度フェイズ先端への内的併合された要素は、ボックス化され、後の統語計算からは不可視的になるとされており、who はそれ以降の統語計算の適用を受けなくなる。そして、ボックス化された要素は、適切な解釈を得るために、高位のフェイズ主要部が派生に導入された段階で、そのフェイズ主要部からの「アクセス」を受け、意味解釈と発音位置が決定される。

しかし、一見するとフェイズ先端への内的併合を受けず基底生成位置で発音されているにもかかわらず、高位フェイズ主要部から「アクセス」を受けて意味解釈位置が決定されている現象が存在する。具体的には、(2)に示す、問い返し疑問文を含めた Wh-in-situ 疑問文が該当する。

(2) Mary saw what?

(Sobin (2010: 131))

さらに、Kitahara (2024)が指摘するように、(3)に示すような埋め込み節に受動態を含む Wh 疑問文では、埋め込み節内に v^*P フェイズ先端がないため、Wh 疑問文を導出できない。

(3) (guess) who you think was arrested.

(Kitahara (2024: 206))

本稿では、ボックス理論を修正し、適切な内的併合なしにボックス化がなされる(2)、(3)のような例を正しく予測できるシステムを検討する。2節で、ボックス理論のもとでの疑問文の派生について詳しく概観する。3節で、Chomsky (2023)のボックス理論の問題点を解決するために、フェイズ終了時に値未付与の素性(uF)を保持した句がボックス化されるとする「一致に基づくボックス理論」を提案する。

2. ボックス理論における Wh 疑問文の派生

本節では、問い返し疑問文、埋め込み節主語 Wh 疑問文に対して Chomsky (2023)が想定可能な派生を概観し、問題となる点を明らかにする。まず、(2)のような問い返し疑問文の派生は、概略、(4)に示すとおりである。

(4) a. {saw, what}

saw と what の外的併合

b. $\{v^*, \{saw, what\}\}$

(4a)と v^* の外的併合

c. $\{\boxed{what}, \{v^*, \{saw, what\}\}\}$

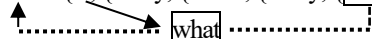
what の内的併合とボックス化

d. $\{C, \{Mary, \{INFL, \{Mary, \boxed{what}, \{v^*, \{saw, what\}\}\}\}\}\}$

主節 C 主要部の外的併合

e. $\{\boxed{What} \{C, \{Mary, \{INFL, \{Mary, \boxed{what}, \{v^*, \{saw, what\}\}\}\}\}\}\}$

主節 C 主要部から what へのアクセス



後のフェイズ主要部からのアクセスを受けるために、(4c)の段階で what はフェイズ先端である v^*P 指定部への内的併合の適用を受ける。この時、先に外的併合され構造に導入されている what とコピー関係が結ばれ、 v^*P より上位の位置での意味解釈・発音が予測される。そして、(4e)の段階で、主節 C 主要部からボックス化された what へのアクセスを経て、what の作用域が決定される。しかし、発音位置については、文頭での発音を誤って予測し、元位置で発音される Wh-in-situ 疑問文の特徴を捉えられないことになる。

次に、埋め込み節主語 Wh 疑問文の派生を見る。埋め込み節に受動態を含む(3)のような文の派生は、(5)で示されるとおりである。なお、構造中の影付き箇所は転送領域を示す。

(5) a. {arrested, who}

arrested と who の外的併合

b. $\{was, \{arrested, who\}\}$

(5a)と was の外的併合

c. $\{INFL, \{was, \{arrested, who\}\}\}$

(5b)と INFL の外的併合

d. $\{who, \{INFL, \{was, \{arrested, who\}\}\}\}$

who の内的併合

e. $\{C, \{who, \{INFL, \{was, \{arrested, who\}\}\}\}\}$

(5d)と埋め込み節 C の外的併合

f. $\{C, \{you, \{INFL, \{you, \{v^*, \{think, \{C, \{who, \{INFL, \{was, \{arrested, who\}\}\}\}\}\}\}\}\}\}$

C の外的併合

(5d)の段階で、who は INFL 指定部への内的併合の適用を受けるが、この位置はフェイズ先端ではなく、ボックス化されない。従って、高位のフェイズ主要部 C が導入された時、who は C からのアクセスを受けることができず、

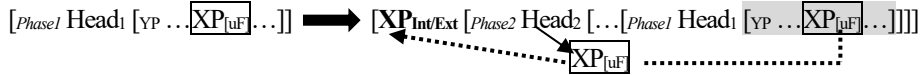
(3)の疑問文を派生できないと予測してしまう。

3. 提案と分析

前節で取り上げた問題点を解決するため Chomsky (2023)のボックス理論を修正し、(6)に示す「一致に基づくボックス理論」を提案する。

(6) フェイズ Ph の完成時、 Ph の転送領域内に *unvalued feature* (uF)を保持した句 XP があるならば、XP は(a)、(b)のいずれかの扱いを受ける。

a. 転送前に XP がボックス化され、XP の解釈/発音が上位フェイズで決定される。



or

b. 転送後に XP がボックス化され、XP の解釈は上位フェーズで、発音はボックス化位置で決定される。



以下で(6)に基づいて、問い返し疑問文と埋め込み節主語疑問文の派生を見る。ここで Wh 句 *what* は[uQ]、[vwh]、[uCase]、[vφ]を持って派生に導入されるとする。また、Chomsky (2020)に従い、フェイズ主要部からの素性継承前に一致操作が起きると仮定する。

- (7) a. {saw, what_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}} saw と what の外的併合
 b. {what_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}, {saw, what_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}} what の内的併合
 c. {v*_{[vCase][uφ]}, {what_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}, {saw, what_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}} v*の外的併合と一致
 d. {v*_{[vCase][vφ]}, {what_{[uQ][vwh][vCase:ACC][vφ]}, {saw, what_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}} 転送後 what のボックス化
 e. {C, {..., {what_{[uQ][vwh][vCase:ACC][vφ]}, v*, {saw, what_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}} 主節 C の導入と C からのアクセス

Wh 句 *what* は、 v^*P フェイズ内で導入されるが、当該フェイズ内で[uQ]素性の値付与は行われず、転送後にボックス化される。転送後のボックス化によって発音位置はボックス化される位置と決まる一方、上位フェイズ主要部からのアクセスを受けられ、主節作用域をとる。

また、埋め込み節主語 Wh 疑問文も同様に捉えられる。

- (8) a. {arrested, who_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}} arrested と who の外的併合
 b. {who_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}, {INFL, {was, {arrested, who_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}} who の内的併合
 c. {C_{[vCase][uφ]}, {who_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}, {INFL, {was, {arrested, who_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}} 埋め込み節 C の外的併合と一致
 d. {C_{[vCase][vφ]}, {who_{[uQ][vwh][vCase:Nom][vφ]}, {INFL, {was, {arrested, who_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}} 転送前 who のボックス化
 e. {C, {..., {who_{[uQ][vwh][vCase:Nom][vφ]}, {INFL, {was, {arrested, who_{[uQ][vwh][uCase][vφ]}}} 上位 C からのアクセス

Wh 句 *what* は、埋め込み節 CP フェイズ内で[uQ]素性の値付与が行われず、転送前にボックス化され、解釈位置と発音位置の両方が上位フェイズ主要部からのアクセスで決定される。

4. 結語

本稿では、Chomsky (2023)の提案するボックス理論の問題点を指摘し、それらを解決する「一致に基づくボックス理論」を提案した。一致に基づいたボックス化と、ボックス化のタイミングを検討することで、Wh-in-situ 疑問文や埋め込み節主語 Wh 疑問文に説明を与えることができる。

参考文献

- Chomsky, Noam (2020) “Puzzles about phases,” *Linguistic Variation: Structure and Interpretation*, ed. by Ludovico Franco and Paolo Lorusso, 163-167, Mouton de Gruyter, Berlin.
- Chomsky, Noam (2023) “The Miracle Creed and SMT,” Ms., University of Arizona/MIT.
- Kitahara, Hisatsugu (2024) “A Review and Reanalysis of Some Recent Developments from GK to MC, and Beyond,” *Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies* 55, 199-214, Keio University.
- Sobin, Nicolas (2010) “Echo Questions in the Minimalist Program,” *Linguistic Inquiry* 41, 131-148.